



おはようロスアンゼルス

倫理研究所U. S. A. 南カリフォルニア倫理の会

5月号会報

2202 W. Artesia Blvd. Unit L Torrance, CA 90504

Fax: (310) 323-6737

2013年(平成25年) 5月1日(水)

NO. 141

ロスの皆さまとの 出合いに感謝

文化部 矢口裕司

三寒四温とはよく言ったものです。先日まで暖かかったのが嘘のように今朝は冷え込んでおり、セーターを一枚着込んで出勤しようかと思つたほどです。

南カリフォルニアの皆さまはいかがお過ごしでしょうか。今回の滞在では秋津書道会・しきなみ短歌会の支苑活動をはじめ、皆さんの活気あふれる姿をたくさん拝見し、元気をもらつて研修を進めることができました。

秋津書道会では例月の競書作品を仕上げ、講演会のための作品作りに没頭するなど、筆を執つて熱心に書かれている様子を拝見し、ただただ感心させられるばかりでした。しきなみ短歌会では、例月の歌会を行い、講話の中で「一首一感動」をもう一度意識し、初心を忘れないようにすることの大切さを再確認いたしました。個性豊かな会員の方々からは、文化活動を通して「個性の発揚」「生活の浄化」という二大目標を意識し、ひたすらに取り組んでいただいていることを実感いたしました。バス旅行では五十名近い方々の

ご参加をいただき、車内ではありましたが「初めての短歌教室」を開催することができました。しきなみ短歌会の活動をご存知ない方も短歌を始めるきっかけになってくれることを期待しています。

カールスバットのお花畑はよく整理されたきれいな場所です。とても癒されました。ペチャンガのカジノではギャンブルを初体験し、これが本場かと胸熱くなる瞬間でした。今回の一番の感動はスペースシャトル「エンデバー号」を見たことです。連れて行ってくださったグレースさん、滝川さんありがとうございました。

また十月にお伺いする予定になっております。これから文化活動を通して広く純粋倫理を普及するため、日々の業務に邁進してまいります。そして皆さまと再びお会いし、感動を共有できることを心から楽しみにしています。



倫理文化講演会

日時

五月十九日(日)午後一時

場所

ホリデーイン・トレーニング

講師

生涯局 教育企画部 部長

和田毅

テーマ

「母の品格・家庭の太陽」

― 家族関係を良好にする心の持ち方について考える ―

今年の文化講演会のテーマは「おかあさん」です。おかあさんを通して自分自身の原点を省みることによつて、家族一人ひとりが輝き、よりよくなるための心の持ち方、その実践について学びます。自分の母を、また自分が母親であることを、この講演会で深く考えてみましょう。

どの年代にも通じるテーマです。たくさんのお友達にお声をかけてください。大勢の方に参加して頂きましょう。男性も家庭の中の母の役割を知る良い機会です。今からお声をかけて文化講演会を成功させましょう。

慈母の愛は神の心

母親の最も美しい姿をもし絵にしようとするならば、子どもを抱いているところ、なかでも無心の赤子に乳をふくませているところでしょう。

これをとらえて描いたものに、チャールズ・ホーンンの名画があります。(ボストン美術館蔵)。若き母が、左手にその愛児の項(うなじ)を、右手にその足のあたりを愛の腕(かいな)で抱きあげた立像で、希望に満ちた明朗なまなざしは、大空を象徴するかの晴ればれとした表情にあふれ、温情と敬虔な心の光は、その眉宇にあらわれて見えます。

何の欲もなく、何の報酬も望まず、ただ喜んで与える。己のいのち(魂)を、ただただ愛児のために与える。これは、神(仏)の心であり、天使の美しい姿であります。(高杉 陽)

(『新世』620号「朝の思索」より)

母のぬくもり、母の笑顔、母の一言・一によって、すべての子は育つた。その母に、こころから感謝したい。

しきなみ短歌会

四月六日(土)午後一時半より
倫理オフィスにて、日本より矢口
裕司専任講師を迎えて第二百二
十八回歌会を開催。

四月より新入会の和田好江さ
ん、西島幸彦さんのお二方も参
加。司会は松永典子さん。ホン
史子さんの始めの言葉、会員の
自己紹介、矢口裕司講師の講話
と続く。矢口専任講師からは、
「一首一感動」をテーマに客観
的な目を持つ事、感動は求めて
いると降ってくる、自分自身の
心と向き合うことの大切さを学
ぶ。また、感動を大切に、学び
を生かしながら、日記としての
短歌を詠む事をすすめられる。

その後、詠草朗読。高点歌発
表。引き続き、合評、講評、作
者の作意発表。その中で助詞を
効果的に使うことを学ぶ。「こ
の道」のメロディで高点歌を全
員で朗詠。

最後に矢口専任講師の総評。
短歌会に出たら一つ言葉の土産
を持って帰って次の自分の短歌
に試みてみるようにしましょう
と勉強の方法を示された。

いつもにも増して和気あいあい、
和やかで楽しい短歌会であった。
今回の短歌会は五月五日(日)午
前十時半から十二時半までオフ
イスにて。

高点歌 杉野和子

白梅の蕾いつしかほころびて

冬枯れの庭に春を呼びこむ

みなさんにも、春の訪れを感じる

美しい情景が浮かぶことではし

う。

しきなみ会員一同、みなさまの入
会をお待ちしております。

参加者十

四名

(伊澤

潤子記)

懇親バス旅行

四月七日(日)、午前八時半に
オフィスを出発した五十人乗り
バスは、カールスバッドの花畑
へと走り出した。バス中では、
モニタリングミクサーとして川田
会長の指揮の下、葉の十七か条
を皆で唱和した。

その後、矢口裕司専任講師に
よる簡単な「短歌の作り方」の
講義があり、参加者はそれぞれ
指を折り、ぶつぶつとつぶやき

の短歌を披露し、皆が拍手を送
った。花畑に着くと、先ずお弁
当を食べ、それぞれグループに
分かれて散策した。何種類もの
ランキュラスの花の帯の続く
様は、うす曇りの少し肌寒い中
でもため息が漏れるほど鮮やか
で、写真をとる人達の歓声があ
ちこちで聞かれた。途中下車可
能なトラクターに乗って隅々ま
で見学した人もいた。

十二時に花畑を出たバスは、
隣接するアウトレットで十四名
を降ろし、パチャンガへと向か
う。下車組は、この後四時半ま
で気の合う仲間とお買い物とウ
インドーショッピングに励み、

またベンチに腰掛けて語り合
いながら時間を過ごした。パチャ
ンガでは矢口先生と共にギヤ
ブルに専念し、一セントで上手
に遊びながら楽しんだ人、結局
は差し引き負けてしまった人、
最後の土壇場でジャラジャラと
出だした人など様々だったけれ
ど、集合時刻には皆が揃った。
全員を乗せたバスは、アウトレ
ット組みを迎えた後、六時ごろ
オフィスへ無事辿り着いた。
一日の旅は心地良い疲れとと

もに終わり、それぞれ帰途に
ついた。皆さま、お疲れ様で
した。(草野律子記)

展示作品

五月十九日の文化講演会に
は、秋津書道会員、しきなみ
短歌会員の作品展示がありま
す。力作が揃っていますので、
お友達をお誘いして、是非、
ご覧下さい。和田毅部長の講
演「母の品格―家庭の太陽―」
そしてコーヒータムと続き
ます。どうぞ、一日を楽しく
お過ごし下さい。

人をよろこばせましょう

「この世の中は、すべて発
願還元の原理に支配されてい
る」などと申しますと、いか
にもむずかしい理論のように
思われましようが、別にわか
りにくいことでもなんでもあ
りません。

人を喜ばすものは、必ず自
分も喜ばされる、与える者は
与えられる、ということであ
ります。(『日日の倫理』)

高等部（東京）

壽者福之首
癸巳元旦
幸江

筆の動きが良く、バランスもすばらしいです。
1席 堀井 幸江

壽者福之首
癸巳元旦
長谷川

楷書の筆遣いがしっかり出来ています。
2席 長谷川 信子

壽者福之首
癸巳元旦
律子

筆勢があり力強い作品です。
2席 草野 律子

壽者福之首
癸巳元旦
由希

5席 脇山 由希

〈選を終えて〉

秋津書道・高等部選者

廣 恵子

一生懸命に書かれた作品の中、選んでみれば、カリフォルニアの方が一、二席となり、驚いている。書道をする環境が日本よりは恵まれていないと思われる海外で書に取り組まれている方々の気概に改めて感動した。

（『秋津書道』四月号より）

壽者福之首―（長寿は一番の幸福である）の意。

秋津書道 お習字の基本

日本から出張、矢口祐司先生の秋津書道は四月六日（土）午前に行われ、すばらしい勉強をしました。半年前と同じスピードある筆運び、あの太い三号の筆一本で大きな字から小さな細かい字まで、さらに楷書、行書から草書まですらすと。

出席者全員はいろいろな角度から、前回よりいっそう深く理解できた様子でした。

例えば筆の先端部分で書く、つまり、ほさき（鋒先）ですらすらと書くには筆全体にタップリとすみ（墨汁）が含まないときれいに書けな

い。筆にすみが含ますぎているとき無造作にすずり（硯石）にこすつて余分のすみを落とすのではなく、すずりの内側の壁に軽く触つてすみを落とすしながらほさきも整えること。ただすずりの上でこすつていると大切なほさきをさらに傷つけたり、また書く字もきたなくかすれるということでした。

矢口先生とほぼ同じことを毎月、滝川歌子、政和両先生の秋津書道で見学しているのに、わたくしは実際にはよく見ていなかったことなどを反省しました。

同じ授業を二人の年輩先生と二十九歳の若い天才先生から受けられたことほど貴重なことは無いと改めて感謝しました。

（大竹信雄記）

どうぞよろしく

西島幸彦さん（二班）

大川敏子さんのご紹介です。しきなみ短歌会に入会されました。

和田好江さん（二班）

倫理オフィスで催した落語がご縁で倫理に來られ、秋津書道としきなみ短歌会に入会されました。

どうぞよろしくお願い致します

おめでとぅーいいます

『しきなみ』四月号

入選 松永典子 郡蛸集（東京・海外）

一席 摺木洋子 真砂集（西東京・海外）

杖をつき屋根に登りて修理する術後の夫の力強

さよ

（評）杖をついて屋根に登られるご主人。力強さ

を作者はすなおに見つめ詠まれ温かい。

入選 杉野和子 飛雲集（西東京・海外）

『秋津書道』四月号 競書

二席 滝川政和 人の部（東京）

一席 堀井幸江 高等部 々

二席 長谷川公子 高等部 々

入選 咲田静子 高等部 々

入選 梅本豊造 高等部 々

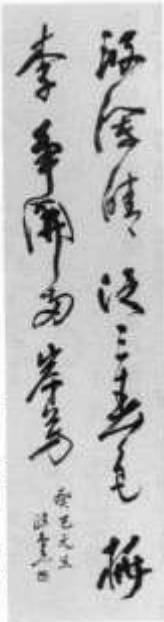
入選 羽島照子 一般部（東京）草書

二席 草野律子 一般部（東京）行書

入選 前田グレース 々 々

五席 脇山由希 一般部（東京）楷書

入選 小倉治望 々 々 々



緊張感みなぎる筆勢が連続にあらわれた。 2席 滝川 政和

百年後を見据えた

条幅の保存作業

現在、倫理資料館では条幅を百点程、保存しています。その中から、毎年数点を専門業者に依頼して、保存処置、修復をしています。

また、修復の優先順位は、条幅の傷み具合、使用頻度を鑑みて決めます。ダメージとして多いのが「シミ」です。次いで多いのが「破れ」です。

手作業による表装は、「手間」「費用」「時間」を要します。当館が修復を依頼する工房では、条幅一幅の表装に半年程を費やします。

こうした貴重資料は、五十〜百年後を見据えての保存が指標とされています。もし、次の五十〜百年後の世代が、創始者の遺作と触れ合うことが出来たならば、その時に始めて、当館の保存作業が実を結ぶのかもしれない。（『倫理』722号「研究レポート・3」より抜粋）

しきなみ短歌

初対面の夫の親戚皆揃うお通夜の席嫁を演じる

細き枝に毅然と咲きたる紫木蓮小寒き空に命あるごと

主の手で選定され市椿の木新芽青光かがやく

白梅の蕾いつしかほころびて冬枯れの庭に春を呼びこむ 杉野和子

伊勢エビは首をはねられ角たてて目をむきだしてキュツキュウ鳴きおり 長谷川公子

「翔ぶ女」などのせられアメリカへ楽しかったのね若かったのね 塩出笑子

亡き夫の厚く重なる思い出の心のページ今なおめくる 橘高比呂美

母の留守久方ぶりに父とするはずむ会話に時の過ぎゆく 伊澤潤子

オリビアは蜘蛛の巣型のパンケーキをくすくす笑いパクパク食べる 梅本豊造

子等よりのクリスマスギフトの掃除機を夫輕輕と使いこなせり 梅本和子

母逝きて四十年はや過ぎ享年に吾近づく日ま近になりぬ 門園美枝子

おはようと声を掛け合う仲間いて今日も明るい気力湧きくる ホン史子

赤子抱くマリア思わずチューリップの芽立ちにもらう明日への光 松永典子

ドン痛が左の肩にあぐらかく前ぶれもなく我を襲いぬ 草野律子

白き梅はらはら水面に散りゆきて長雨睦月の短き命 摺木洋子

野に咲いたたんぽぽ摘んで渡す娘の笑顔のさきに綿帽子舞う 松元依子

扉越しにフジの香の漂いて散歩もゆくらと楽しみにけり 伊勢田豊

花嫁に寄り添い愛を誓い合う親友は行くバージンロードを 矢口裕司